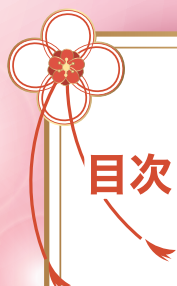




真庭商工会報



目次

会長年頭挨拶・新会員紹介P2
真庭市長・新庄村長 年頭挨拶P3
経営支援事例P4~5
支援の広場P6~7
専門家の声P8
青年部・女性部P9
求人情報P10~11
告知 ほかP12

～第23回勝山のお雛まつり～

勝山のお雛まつりは桃の節句を祝って町並み保存地区から新町商店街の約1キロ区間の民家や商家の軒先や道沿いの部屋にお雛様を飾っており、その軒先は100軒以上になります。今年度は令和3年3月3日～7日の5日間開催されます。

新年のご挨拶



真庭商工会
会長 山下 豊

新年あけましておめでとうございます。皆様にはご家族お揃いで輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

日頃より真庭商工会の事業に対し格別のご支援、ご協力を賜わっておりますこと、誠に有難く心から感謝申し上げます。

さて、昨年はこれまでに経験したことのない大変な一年でした。

中国武漢で発生した新型コロナウイルスは瞬く間に世界中に拡散し、20世紀初頭の世界大恐慌に匹敵すると言われるほどの大打撃を与え、世界経済は奈落の底に転落したかのような有様でした。経済だけでなく、従来の暮らし

方を根底から変える甚大な影響を与えました。

世界中の国がコロナ禍から国民のいのちを守ることは勿論ですが、暮らしの基盤である経済の破綻を避けるべく、強力に財政出動し、懸命な努力をしております。

そのおかげで、感染がいつ収束するかいまだにはつきりしない中、世界はコロナ禍から復活すべく力強く歩き始めたようです。

日本国内においても様々な補助金、助成金のお陰で何とか当面の危機は回避されました。

真庭商工会では昨年、通常業務の他にコロナ対策関連の国、県、市等の各種支援金や補助金の窓口として、会員はじめ事業者の皆様のお役に立つべく職員総出で、時には休日も返上し対応致しました。この対応の結果が新たな会員拡大にも繋がっており、4年連続会員純増も達成出来る見込みとなりました。

今年も一部にはV字回復との楽観的な予測もあるようですが、依然として厳しい状況は続くものと思われます。特に地方においては回復までに時間が掛かりそうです。

益々商工会の真価が問われる一年になります。これまでとは違ったwithコロナ、アフターコロナの世界の中で、会員の皆様が事業を継続、承継、発展させる為、また新たな分野への進出や新商品の開発、新規事業の立ち上げなどの為、今まで以上に皆様に寄り添った質の高い相談や指導が出来る、頼れる商工会となるよう努力いたします。

さて、令和3年度は役員改選の年となり、私も理事、総代の任期が満了いたします。大変お世話になりました。会員の皆様はじめ関係各方面のご支援、ご協力を改めて感謝申し上げます。今後は大きな変化の時代に相応しい新体制のもと、県下最大、最高最良の商工会として益々発展していくよう念じております。

終わりに皆様のご多幸ご健勝、事業の益々のご発展、ご繁盛をお祈りし年頭のご挨拶といたします。

解とご協力をたまわり、厚くお礼申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症(以下、「新型コロナウイルス」という。)の流行により、世界中の人々の行動が萎縮し、生活に大きな変化を生じました。中山間地である真庭地域でも休業や営業自粛など経済活動に大きな影響がありました。こ



真庭市長
太田 昇

新年あけましておめでとうございます。皆様方におかれましては、希望にあふれる輝かしい新年をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

また、日頃より本市の商工業をはじめとする産業振興に御尽力され、本市が掲げる「回る経済」の確立に向け、市政各般にわたり深いご理

新会員さん紹介(受付順・敬称略)

令和2年5月～10月

▼北房地区

生田博之
取次店八光
西谷工務店

▼落合地区

㈱金平工務店
池本園芸

▼久世地区

㈱ QUEEN LABO
Luca エンリクサロン
スタジオ TUM
和田造園
菅我印刷

松岡輝正
アバンセ行政書士事務所

▼勝山地区

おののすみか
ジヨイ美容室
YAMAURA Design Office
民宿小山
マキノガラス

▼美甘地区

㈱キノイエ

▼湯原地区

はなざきや
山のピザ屋 ぱうとーあ
トータルプラインケタ

▼蒜山地区

TOKIYAPLAS ㈱
貸しコテージちびころハウス
デフスインタビュー
蒜山もちもち村

の間、真庭商工会では事業者相談窓口を設置され、国や県の支援策の紹介や申請手続きの支援に「ご尽力いただく」とともに、本市と共同で「ささえあい事業継続給付金」事業を実施するなど、事業者の伴走役として本市の産業経済を支えていただいておりますことに深く感謝申し上げます。

さて、この新型コロナウイルスは、この現代社会に多くのことを問いかけています。その最も重要なことは、「人権尊重の価値」です。感染症の拡大に伴い、恐怖や不安が広がりました。それが不信や猜疑心となり、感染者や時には医療関係者に対する差別や攻撃となった例が連日のように報道されました。このような時にこそ「日本国憲法」の精神が、今の私たちの生活を支えるものであり、この状況に対する指針となります。互いの人権に対する尊重と信頼を生活の基礎に置き、この地域での生活を守ることが、私たちの責務ではないでしょうか。

もう一つ私たちが新型コロナウイルスの影響下で実感したのは、「いつもの生活が続くこと」の大切さ



新庄村長
小倉博俊

新年あけましておめでとうございます。

真庭商工会の関係者の皆様方におかれましては、輝かしい新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

平素は、真庭地域の経済・産業の振興に多大な役割を果たされ敬意を表しますとともに村政運営にも深いご理解とご協力を賜っておりますことに、厚くお礼申し上げます。

昨年は、年明けから新型コロナウイルス感染症の拡大により、世界経済に深刻な打撃を与えており、私たちが経験したことのない影響が随所に見られた1年でありました。未だ厳しい先行きを覚悟しなければならぬ状況下ではありますが、皆様とともに真庭の経済の発展に寄与

です。昨年5月に特別定額給付金の申請書と一緒に市民の皆様へのメッセージで、「真庭の生活が取り戻せるように、より暮らしやすいまちになるように」、「市内での買い物をお願いしました。いつもの生活が当たり前にできることの大切さを、だれもが実感したことと思います。地域の生活を支えるのは、地域の皆様です。生活に必要なものが地域の中にあることが、安心して暮らせることの基盤です。商工業を担われている皆様のご尽力が、日常生活と健康の維持にどれほど大きな役割を果たしているかは、論を待ちません。時には感染のリスクの中においても、この日常生活の基礎を支えている方々の仕事や活動が続いたことについて、地域住民の方も、改めて認識を深められたのではないのでしょうか。

真庭市でも複数の感染症の事例が発生しましたが、市民の皆様は冷静に、穏やかな日常を続けてこられました。昨年、第2次総合計画を改訂しましたが、その基本理念の中で「平和と命が保障されていること」と定義しています。新

していきたくと考えております。さて、本村では昭和44年に建設後、50年にわたり村の拠点として村民に親しまれてきた役場庁舎を、耐震性が極めて低く老朽化が進んでいることから新たに整備することとしました。これは、村議会主催による住民協議会「村づくり自分ごと化会議」の中で議論を重ね、諮問機関として設置しました「役場庁舎整備検討委員会」からの答申を受け、整備する方針を決定したところであります。

新庁舎の建設にあたり、今まで以上に「自主自立」の精神で行政サービスを実践し、過去から未来へとつなげ、長く愛され、村民に親しみをもってもらえるような新庁舎づくりに取り組んでいきたいと思っております。

あわせて、村内にある豊富な森林資源の恵みを活かした木質バイオマス事業にも取り組み、環境に配慮した林業による地域経済の活性化にもつなげていきたいと考えております。

基幹産業である農業を守るため、以前からの懸案でありました「農業公社」の立ち上げを昨

型コロナの感染対策が続く中であって、この基本理念を実現することが私たち真庭市の誇りです。「人権の尊重」と「平和な生活」を基調とするこの中山間の生活こそがウイズコロナ、ポストコロナにおいてモデルとなるものと確信しております。

一方で、新型コロナウイルスによる地域経済の影響は、依然として続いております。また、感染拡大を防ぐため、昨年はいくつもの大きな祭りやイベントが中止となりました。この新型コロナウイルスの経済停滞は急激なものであり、長期化と構造化が見込まれております。本市では、真庭商工会と密接に連携し、事業者支援策として、「市内経済循環の活性化を促す消費喚起」、「コロナ後に向けての積極的な投資など」に対する支援の両面から対策を行ってまいりました。今後も、事業者の方々がコロナの経済停滞を乗り越えるよう支援に重点を置いてまいります。また、感染症予防に留意しながらも、工夫をこらして様々なイベントを開催し、お互いに励ましあいたいものです。

本年、いよいよ東京都晴海から蒜山高原に

年10月に行いました。旭川の源流に位置する本村の豊かな自然を守るため農地を有効活用し、効率的かつ生産性の高い農業経営を行うことで高齢化、担い手不足等により減少する農地の保全と地域社会経済の活性化に寄与することを目的としております。今後は、農地の借り受けを行い、4月からの営農・作業受託等に向けて進めてまいります。

昨年オープンしました新庄宿 須貝邸が「ミシュランガイド京都・大阪十岡山2021」に掲載していただくことになりました。がいせん桜通り位置する古民家を活用した小宿でゆったりとした時間を過ごしていただきながら、地元出身の若い料理長による里山の美食料理が自慢となっております。二組限定だからこそ出来る「おもてなしの探求」へ新たな決意とともに、通りの賑わいをもたらす一翼を担えればと思っております。

コロナ禍において人々の生活様式が変化中、観光施策も新しい形態を取り入れていくことが求められています。本村では昨年9月に

CLT施設が里帰りします。この施設は、SDGsが掲げる持続可能な環境づくりのコンセプトを「建築物を原材料のふるさとに構築すること」で体現するものです。本市の「SDGs 未来都市」の取り組みを象徴するものであり、未来志向型の中山間地域の可能性と地域価値を上げる施設でもあります。また、この施設を核として、蒜山地域だけでなく市内各地へと地域の魅力の動線を広げ、市全体の地域観光の振興を企図しております。

人口減少などの課題は多くありますが、志が高く持ち、課題解決に挑戦し続けることで、道は必ず拓かれます。今後も引き続き、行政だけでなく広く市民、市内事業者の皆さまと一緒に取り組むべく、真庭市の永続的発展を目指したいと考えております。

結びに、本市商工業の発展を担う真庭商工会並びに会員皆様の益々のご繁栄とご健勝、ご多幸を心からお祈り申し上げます。新年の挨拶とさせていただきます。

観光庁の事業採択を受け、新たな旅行スタイルに対応した着地整備を行いながら、観光資源をより安全で集客力の高いものへと磨きあげるための調査・実証を進めているところです。魅力の再発見や人材育成を行い、地元経済の活性化につなげるため、本事業を有効に活用しながら新たな村の観光発展に努めてまいります。

平成27年から本格的に取り組み始めた移住・定住の施策も5年間のトータルで社会増となっており、令和2年の年少人口増加率が県内1位であることから、少しずつではありますが成果が表れ始めています。まだまだ課題は山積していますが、引き続き関係人口の増加に取り組み、幸せを感じられる村づくりに鋭意努力してまいります。

今後とも、真庭商工会の皆様方には、一層のご理解・ご協力を賜りますとともに、新型コロナウイルス感染症が一日も早く収束し、真庭商工会の更なるご繁栄と、皆様方のご健勝とご多幸を心よりご祈念申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。